

目標から逆算して進路考える

主体的に将来像描く

美瑛高 進路ガイダンス

【旭川発】美瑛高校(升田重樹校長)は7月中旬、同校で1・2年生を対象に進路ガイダンスを開いた。同校が計画的に進めるキャリア教育の一環で、同校を会場に展開するのは本年度が初めて。情報、美容、調理、福祉など様々な分野の職業について講師からやりがいや進路選択のアドバイス、必要な資質などを聞き、主体的・具体的に自身の将来像を思い描く機会とした。

同校では、1・2年次に学校設定科目「キャリア探求」を設定してキャリア講話や職業適性検査、地域巡回、インターシップに取

う。「職業や学問を知り、そのためにどのような学びが必要か逆算して考えること」で、主体的に高校生活を過ごしてほしい」と期待を込めた。

当日は、1年生31人を対象に、北海道情報大学や旭川大学など各大学・短大・専門学校との協力を得て、情報・美容・デザイン・調理・福祉など3種類の分野の講座を展開した。生徒は希望した2つの分野のブースに行き、各種職業のやりがいや大変さ、職業に必要な適性などについて説明を受けた。

うち、美容の講座では、美容師等の職業内容について説明する前に「イメージだけで職業を選ぶことの危険性」や「将来なりたい自分を思い描き、目標をもつこと」の大切さを強調。担当者は目標から逆算して進むべき道を考える必要を訴え、生徒たちは真剣に耳を傾けていた。マネキンを使ってヘアカットを体験する場面もあった。

終了後、生徒からは「イメージだけで決めるのでは

なく、将来やりたいことを見つけて目標をもちたい」など進路決定への意欲がみられる感想や、「今後やっておくべきことを知ることができた」「どの資格を取るかなど、様々なことを学んだ」など将来を見据えた具体的な方法について考える感想が挙がっていた。



同様の形態でのガイダンスも展開。生徒の感想からは、「大学と専門学校の違いや、求められる資質など多くのことを聞くことができて、自分の進路についてしっかり考えられるよい時間となった」と大学等での具体的な学びについて理解する姿や、「今からでも身に付けられることがあったので、チャレンジしてみたい」「1年半しか時間がないので行動を見直したい」と思った「など、卒業を見据えて主体的に準備しようとする姿がうかがえた。

美容の講座でヘアカットを体験する1年生